

東北大学附属図書館報

木這子



BULLETIN OF
THE TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

一方、古典、古文書など、館単位で作成すべき綿密な目録の必要性が皆無となることはなく、司書はそのためにこそ存在することも事実でしょうが、利用者の資料接近を早めてやる努力こそ図書館業務の最重点にならなければなりません。

ついでに言及すると、司書は人事異動が稀な職域だと一般に思われています。学芸員、特に美術館のそれは、特定所蔵作品、特定主題との係りあい、よい意味でも悪い意味でも、異動し難い理由になっていますが、専門図書館でない限り図書館には、本来異動を妨げる理由はない筈と思います。あるとすれば、各館の整理方法に多様な差異があったからではないでしょうか。可能な範囲でそれを標準化できれば、機械化による業務のスピードアップが容易になるばかりではなく、広域な人事異動が可能となり、司書の地位の向上と、図書館ネットワークの形成に資するところ大である—と思うのは、“出戻り司書”の単なるたわ言でしょうか。

ある 思 い 出

参考調査掛長 相 馬 正 基

東北大学附属図書館に、たまに閲覧利用のために訪れる学外の研究者とお会いすることがあるが、一様に「まだ図書館にお勤めになっているんですね。お元気で何より。」と驚かれるようだ。長い間の時勢の移り変りと、若い時代の私の風貌からみて、そう思われるのは当然なのかも知れない。

このようなことも、あと数十日で無くなるのかと思うと一抹の寂しさを感じるのである。

私が就職した頃の旧片平丁の附属図書館本館は実に立派で、室内も清掃が行き届き素晴しかった。しかし翌年から第二次世界大戦突入となり、私が復員した頃（1947年）は、保全どころでなく短期間に著しく汚れて古びたのが印象に残った。

当時の世相からみて、私達若い人は腰を落着ける職場が考えられず、兵役のこと、更に生死に関わることが目の前にあった。私とて、図書館が一生を占める仕事となることは予想もしないことだった。

就職した時期は附属図書館の幹部の大幅な人事異動があった。即ち日本の基督教史の権威で温厚実直な人格者の石原謙館長、エネルギーに朝誰よりも早く出勤、室内を一巡し声をかけて指導された型破りの八木沼源八司書官が去られ、話し方に味のある風格を備えた漱石門下の高弟小宮豊隆館長、英文学者で活発で洞察力の秀れている重久篤太郎司書官がお出でになった。

また洋書目録係でヘーゲル研究の第一人者の武市健人氏、世話好きで包容力のある水泳達人の庶

務主任の本田正太郎氏、温厚で数理に明るい受入主任の米川慶三郎氏、草履で闊歩し、大声で話す雑誌主任の木村太一氏等、退官転出が相次いだ。

当時、几帳面に仕事を進めた日本文芸学で岡崎義恵教授の高弟の北住敏夫氏のもとに私は受入を担当していた。また和漢書目録の大家で閲覧主任の矢島玄亮氏、洋書目録主任の伊木武雄氏、英文学者で洋書目録の本堂正夫氏、和漢書目録で郷土史料の蒐集家で著名だった常盤雄五郎氏、雑誌係で私の召集期間、受入を担当した中国学の中川孝さんなどの学者揃いで、職員は30人足らずだった。また閲覧席も1950年に2列増加して漸く204席となった。当時は時間外閲覧は専任者と出納手のほかに館員の当番制を実施しており、ふだんは混み合うことがないので常連の人々とは顔見知りになることが多かった。この頃の岩波「図書」1942年10月に東京帝国大学附属図書館 増田四郎氏が、「東大図書館の読書傾向について」に当時の状況下にあっても、準教科書、参考書的なもの以外では文学書、随筆書、美術書などが高い割合で利用されていることを述べてあるが、当時の本学に於ても全く共通した利用傾向であった。私は戦時下に於て、戦争関係の経済、政治に群がる現象が意外に少なかったことを面白いと感じたことを特にとりあげておきたい。

当時の仙台市街は概ね藩政時代の町割のままで道路網は現在よりは疎で、旧国道に沿って商店街が密集し、裏町は樹木が多く、名実ともに杜の都だった。また川内の豪壮な国宝の大手門。そこより天守台への入口にあった広くて緑の樹木の影を映していた中島池（今はない）、長靴型の五色沼（今より大きかった）、兵舎等もなくなり、現在は

東北大学の建築、公務員宿舎の列、宮城県美術館等と全く変容している。

片平構内は桜一色で素晴しかったが熊谷学長時代に道路沿いは全部松に植えかえられた。植え替作業をみてなぜかさびしい思いにかられたのを覚えている。また私は亀岡より現在の青葉台、八木山グランド（現在の動物公園）を経て八木山吊橋に至る道の散策が好きだった。亀岡から八木山に至る途では通行人に会うことは殆んどない程、静かな大自然であった。また工兵作業場（現、工学

部敷地で当時は一般立入禁止地域）に見学に行ったこと。追廻（現在の住宅の南）で射撃をしたことなどすべてが夢のようである。

現在は当時は想像もしなかった位に急速に生活社会環境が変化した。また情報化時代となり、図書館も時代の対応とともに著しく進歩しつつある。私自身も今後のあり方については宿題を解きつつ進まねばならないと思うが。

先輩、同僚の皆様方の御指導に感謝し、今後の御発展を祈りたい。

昭和56年度 上半期 文献複写実績

国立大学図書館間等で取扱われた文献複写の本学に於ける昭和56年度上半期（3月～9月）分実績は下記のとおりです。

区 分 図 書 館 名	受 付		依 頼	
	件 数	金 額	件 数	金 額
中央図書館	603 (97)	623,045 (84,805)	124 (345)	469,979 (466,169)
医学分館	704 (576)	352,245 (249,725)	38 (271)	15,540 (140,550)
工学分館	268 (4)	130,700 (2,045)	69 (14)	43,035 (8,645)
農学分館	148 (33)	59,695 (11,340)	38 (70)	17,845 (30,210)
合 計	1,723 (710)	1,165,685 (347,915)	269 (700)	546,399 (645,574)

（注）表中の（ ）内は私費で外数を示す。

昭和56年度上半期（3月～9月）分文献複写受付および依頼国立学校別実績は下記のとおりです。

区 分 学 校 別	受 付		区 分 学 校 別	依 頼	
	件 数	金 額		件 数	金 額
旭川工専	57	12,615	東大図	33 (132)	115,544 (200,469)
筑波大図	38 (13)	36,005 (5,550)	一橋大図	2 (34)	1,620 (67,995)
岩手大図	42 (7)	79,820 (10,460)	京大図	6 (19)	23,225 (43,935)
秋田大図	19	10,820	北大図	5 (19)	12,540 (17,690)
静岡大図	18	8,395	広島大図	2 (21)	1,535 (11,375)
山形大図	14 (1)	7,190 (575)	筑波大図	2 (16)	1,310 (34,195)
岡山大図	14	46,990	福島大図	1 (11)	11,380 (3,325)
阪大吹分	14	2,965	北大農図	10	3,330
京大図	(13)	(11,720)	東工大図	8 (2)	2,090 (1,230)
室蘭工大図	13	4,115	名大図	1 (7)	210 (8,655)
そ の 他	374 (63)	414,130 (56,500)	そ の 他	54 (84)	297,195 (77,300)

（注）表中の（ ）内は私費で外数を示す。

中央図書館受付および依頼件数の多い上位10の国立学校を上げた。

「漢籍整理長期研修」に参加して

和漢書目録掛 星 政 則

東京大学東洋文化研究所附属東洋学文献センターに於て昭和56年9月28日から昭和57年1月13日まで上記研修会が開催されました。参加にあたり自館の漢籍分類目録も既に刊行された後でしたので少なからぬ課題はあったとしても比較的軽い気持ちで上京しました。

西欧の書誌学とは異にし、中国の歴史・文化史・慣習など幅広い範囲での漢籍書誌学の講義が始まったとたん、大変な研修会に参加したものだと思いついた時は既に遅く、史記・漢書から開成石経ついには永楽大典・四庫全書と講義は進む一方、頭の中はそれらのものが整理されることなく雑然としたまま最初の一週間が過ぎました。

書名は巻首から、そして巻数・編著者・出版事項と一定の規則に従う単に形式的な目録法に留まらず、その学問の根源、流れを通しての目録法の講義は充分漢籍への興味を持たせるものでありました。正史・十三経等々歴史的過程をつかむことなど今後の課題にしても奥が深くあまりにも大きすぎるものであります。

漢字の字形の変遷・工具書解題はじめさまざまな角度からの講義は漢籍を整理するうえで大きな糧となるものと確信しております。一日がかりの静嘉堂文庫の見学では重要文化財に指定されている貴重な漢籍、また整然と配架されている資料群を目の当たりにし身の引き締まる思いでした。こうして、東京での7週間はまたたく間に過ぎ地元での後期実習が始まりました。

実習先の宮城県図書館では伊達文庫・青柳文庫・養賢堂文庫等、仙台藩所縁の文庫を背に始めましたが刊本も活字本も同じように見える支離滅裂の有様がそこにありました。目標を掲げて整理にあたるようかねて指示されていたのですが、その目標などしばらくの間どこかに消えてしまいました。実習のなかでは講義の再確認という例がままありました。いよいよ主な文庫の整理が済み、貴重本の整理に手が届く頃にはこの研修も残すところ1週間になっていましたが、和泉先生が来仙の折、今後の予定・計画など聞かされた時、この成果を生かすことが大変なのだと研修会修了の安堵感など一瞬のうちに吹き飛んでしまいました。

最後に、前期期間中暖かくお世話いただきました東文研・センターの皆様はじめ、またとない絶好の機会を与えていただき、そして3ヶ月半もの長期間本当に安心して研修会に参加できるようご配慮いただきました本館の上司・同僚の皆様に心からの感謝を申し上げます。

昭和56年度 第2回東北大学附属図書館 総合研修会

標記研修会は、同時開催の東北地区大学図書館協議会実務者研修会の特別講演も兼ね、2月12日本館大視聴覚室で開催された。今回は東京大学情報図書館学研究センター 助教授 井上 如氏を講師に、「図書館情報学的視点から見たこれからの大学図書館」の演題により行われた。

講師は、我々の職場である大学図書館の機能を図書館情報学という新しい角度からとらえ、第1部では図書館情報学的視点として3つのポイントを説き、第2部ではそれを受けて、大学図書館員の資質と養成について、研究者（利用者）の行動パターンをシミュレートし、利用者の側に立って勉強することが大切であると締めくくり、受講者一同に深い感銘を与えた。

講演内容の要点は次の通りである。

第1部 図書館情報学的視点

1. 2種類の図書館学

(1)書物の著者、読者、著者/読者。(2)写本中心の図書館学。(3)刊本中心の図書館学。

2. 文献情報処理

(1)図書館資料の機械可処理性。(2)文献計量学と引用研究。(3)コンピュータ利用と通信回線。

3. 極分解の構図

(1)両極分解の種々相。(2)図書館機能の多様化。(3)両極分解から3極分解へ。

第2部 これからの大学図書館—学術情報システムの中の大学図書館—

1. 第3の極としての機能

(1)学術情報システム。(2)サブシステムとしての大学図書館。(3)ハウス・キーピングの重要性。

2. ネットワーク化の進展

(1)図書館相互協力。(2)図書館協力組織。(3)図書館ネットワーク。

3. 具体的な問題解決

(1)学生の図書館利用への対応。(2)研究者社会への対応。(3)図書館職員の養成と再教育。

(総合研修委員)

資料紹介 10

C.R.I.S.: Combined Retrospective Index Sets. Arlington, Va., Carrollton Press, 1977-78.

ある主題についてこれまでにどんな論文が発表されたかを知るための書誌については、第6回の本欄 (Vol. 4, No. 4, 1980) で紹介した。

標記の資料は、ある主題についてのぼう大な量の、しかも長期にわたる文献情報をコンピュータに蓄積し、それをもとにして編纂された書誌である。それぞれ主題や収録範囲に相異はあるが、次に掲げる社会科学の三分野についての独立した三つの書誌で構成されており、いずれも相当古い文献にまで遡及調査することができる。

- 1) The Combined Retrospective Index Set to Journals in History 1838-1974. 11 vols. (Subjects Index 9 vols., Authors Index 2 vols.)
- 2) ——— in Political Science 1866-1974. 8 vols. (Subjects Index 6 vols., Authors Index 2 vols.)
- 3) ——— in Sociology 1895-1974. 6 vols. (Subjects Index 5 vols., Authors Index 1 vol.)

これらは、いずれもそれぞれの期間に、それぞれの分野で英語で出版された雑誌に掲載された論文だけを収めている。件名と著者名の二つの索引からなる点は三書誌に共通しているが、件名の配列の仕方には多少の差異がある。1) は歴史学でとり扱うおよそ 240 の件名 (ほとんどが国名) をアルファベット順にならべ、それぞれの件名の下

で (ある場合は更に時代区分されているが) アルファベット順に並べられたキーワードを用いて細区分している。(例参照) 歴史についてだけみる限り、件名索引 9 冊中 5 冊をアメリカ合衆国に割いている点でアメリカ偏向の感がある。2), 3) では政治学、社会学の学問体系を各々 95, 86 の件名 (人名, 地名, 事件, 概念等) にわけ、その個々について 1) 同様キーワードによって主題を細分していく方法がとられている。キーワードには文献のタイトル中の語が使われており、キーワードの数に応じて同じ文献を数ヶ所に見つけることができる。しかし、イニシャルで知られているものでもフルネームからの検索が必要であったり、一つの件名で見つからない時は、別の件名の同じキーワードでもさがすなど文献を見落さない工夫も必要になる。一つのキーワードに二件以上の文献がある時には、発表年 (雑誌の刊年) の早い順に並べられている。

文献リストには、キーワード、タイトル、著者名、発表年、雑誌コード、掲載頁の順に記述してある。タイトルはかなり省略してあるので (巻頭に List of Abbreviations がある) 著者名が省略してあることもあるのとあわせて注意を要する。

雑誌コードから正確な誌名を求めるには、各冊の表、裏の扉に歴史学 240 余、政治学 180 余、社会学 120 余の雑誌リストがあるのでこれを参照すればよい。ただし、各分野の文献は必ずしも同じ分野の雑誌だけに掲載されるとは限らないのでこの点も気を付けなければならない。

Authors Index は、特定著者の著作目録としての使い方もできる。

(参考調査掛)

JAPAN ECONOMICS AND AGRICULTURE (CONT)

KEYWORD	REFERENCE TITLE	AUTHOR	YEAR	VOLUME	JOUR	PAGE
AUTO AUTOMOBILE	JAPN AUTO IND	T YUTAKA	1959	6	256	364
	AUTOM IND		1950	7	657	96
	AUTOMOBILE IND		1951	10	657	456
AVIATION	CIVIL AVIATION	D CONDE J ROTHENBERG RS OZAKI MH KANG	1951	11	657	597
	AVIATION JAPN		1972	78	657	46
BALANCE	ECON IMBALANCE STRAT BAL ASIA		1955	26	773	150
	TRADE BALANCE PAYMENTS		1967	16	640	169
	BALANCE PAYMENTS 1901-1933		1968	2	686	241
	ENG BALANCE OF TRADE WITH JAPAN		1972	3	647	231
BANK	BANK NOTE CIRC	MH KANG	1978	5	647	240
	BANK YEN					
	BANK					

JOURNAL CODE NUMBERS

POLITICAL SCIENCE JOURNALS	
600	Academy of Political Science Proceedings
601	ACEN News
602	Administration [Ireland]
603	Administrative Science Quarterly
604	Administrative Science Review
605	Africa Institute Bulletin [S. Africa]
606	Africa Quarterly [India]
607	Africa Report [Nigeria]
608	Africa Research Bulletin [UK]

683	Journal of Comparative Administration
684	Journal of Common Market Studies [UK]
685	Journal of Conflict Resolution
686	Journal of Developing Areas
687	Journal of Development Studies [UK]
688	Journal of International Affairs
691	Journal of Politics
692	Kuwait
693	Latin American Research
694	

低成長予算と学術雑誌価格の高騰

—— 米国の雑誌を主に —— 逐次刊行物掛 松 井 好 次

政府は、昨年12月28日に、一般会計で総額49兆6,808億円の規模にのぼる昭和57年度の国の予算案を閣議決定した。このうち、文部省所管の一般会計予算案の総額は、4兆5,848億円であり、56年度当初予算額に比べて、1,162億円の増額（増加率2.6%）となっている。また、国立学校特別会計予算案の総額は、1兆4,741億円であり、56年度当初予算に比べて、811億円の増額（増加率5.8%）となっているが、この国立学校特別会計予算案の総額のうち、一般会計からの繰入額は、1兆369億円である。したがって、文部省所管の予算案の純計（文部省所管の一般会計予算案と国立学校特別会計予算案とを合算した額から、国立学校特別会計が一般会計から受入れることを予定する額を控除した額）は、5兆220億円となって、これは、56年度当初予算額に比べて、1,681億円の増額（増加率3.5%）となっている。（以上、文部広報第735号による。）

一方、総理府統計局が本年1月29日に発表した昨年12月の全国消費者物価総合指数（昭和55年＝100）は106.5で、その結果、昨年の全国消費者物価総合指数の平均は104.9となり、前年比4.9%の上昇であったという。

以上のことから、文部省所管の予算案の純計の伸び率は、今年も消費物価総合指数が昨年並みの上昇とすれば、マイナスということになり、国立学校特別会計予算案にしてもわずか0.9%の伸びということにしかない。

このように、明年度の大学及び研究機関をとりまく財政事情は、きびしさを増したと考えざるを得ないのであるが、この問題は大学図書館における最も重要な情報源である外国雑誌購入費にも大きな影響を与えることになるであろう。

ここ数年来、学術雑誌、特に外国雑誌の価格高騰は著しいものがある。そこで以下に、本学の場合でも購入外国雑誌点数のほぼ半数を占める米国雑誌を中心に、雑誌の値上りの実態について、Michael R. Kronenfeld と James A. Thompson による論文、The Impact of Inflation on Journal Cost (Library Journal, 1 April 1981, pp. 714-716) を参考にしながら述べてみたいと思う。

まず、図表1から3を見ていただきたい。これは米国の学術雑誌の価格推移と米国の消費者物価指数(CPI)とを、1970年＝100として比較したものである（雑誌の価格については Norman B. Brown と Jane Philips による Price Indexes for 1981, U. S. Periodicals and Serial Services (Library Journal, July 1981, pp. 1387-1393)を

参照し、CPIについては、OECD, Main Economic Indicators によったものである。但し、1981年の指数は8月現在のものである）。分野別にみると労働問題の603.9を筆頭に化学・物理学の467.3、工学の451.9、数学・地学・植物学他の417.6、社会学・人類学の429.1が目立ち、米国雑誌全体では375.9と1970年からの11年間に3.76倍にもなっている。それに比べて、CPIの方は上昇しているとはいえ、1970年を100とした場合、1981年(8月)は237.7であり、米国の雑誌の中で一番値上率の低い法学の252.0よりもさらに約15%低い。すなわち雑誌の値上り率は、他の諸物価のそれよりも激しく、1981年現在、米国雑誌全体で、CPIの1.58倍の高率である。ちなみに、1970年と同額の予算で1981年の雑誌をどの程度入手できるか試算してみると、分野別では化学・物理学で21.4%、工学で22.1%、数学・地学・植物学他で23.9%、社会学・人類学で23.3%、労働問題にいたっては16.6%と1/5を割ってしまう。米雑誌全体でも、26.6%と1970年当時の1/4強しか買うことができないことになる。これに比べて一般の商品の方は42.1%と半分を割ってはいるものの、4割は買える。Richard De Gennaro が Time to Fight Back (American Libraries, Vol. 8 p. 69-74) で指摘している通り、雑誌価格の上昇率は一般の物価の上昇率に比べて不当な程、高いのである。では果たしてこのような雑誌価格の高騰は米国特有のものであろうか。そこで図表4を見ていただきたい。これは英国の Library Association Record, Vol. 83, No. 5 (May 1981) の Periodical Prices から抜き出したものであるが、これの対象とする雑誌の範囲は全世界にわたっている。ただサンプル誌の数の少なさ(Library Journal の Price Indexes for 1981は米国の全雑誌である3,425タイトル誌を対象としているのに対し、これは全部で2,007タイトルであり、米国とカナダに関しては、合わせて696タイトルしか対象としていない)の為に Library Journal の "Price Indexes for 1981" とは若干の食い違いがみられる。しかし、この表から見る限りでは、米国で出版された雑誌（表ではカナダも含まれている）が英国やその他の国に比べて高いという訳ではなく、むしろ思いのほか安い。英国では1970年を100とした場合、538.1と米国・カナダにおける1.7倍その他の国では620.4と実に米国におけるよりも2倍の値上り率である。分野別に見ても、医学では、米国雑誌が368.5に対して全世界が446.8、農学では米国333.5に対し609.4、歴史では米国

260.3に対し、430.0と軒並み全世界における雑誌の方が価格の上昇率の点で米国よりも上まわっている。以上のことから、雑誌価格の急激な上昇は世界的な傾向であると言えることができる。

図表5は、米国の雑誌の価格が最近5年間に前年に比べて何%ずつ増加しているかを表わしたものである。自然科学系では、上昇率最低の動物学でも平均で9.1%、最高の医学では平均で12.7%も前年比で値上りしている。人文・社会科学系では、最低は文学・語学の8.3%、最高は労働問題の16.0%である。全体では11.7%であるが、一進一退しながらも少しずつ上昇する傾向にあることに真剣に注目する必要がある。

さて米国で出版された雑誌を日本で購入する際国内価格は以下のように決められている。

国内価格＝（米国内での定価）×（雑誌予約時のドルに対する円の為替レート）＋（書店の手数料等）

国立大学で外国雑誌を購入する場合、いろいろな事情から書店を経由して行なうのが現状であるが、その際書店は米国内での定価に対して何%かの手数料をとるのが普通である。（この手数料の内訳等については東京地区国立大学図書館協議会編の「外国資料流通問題検討会、第一次報告昭和55年9月」の14ページ以下に詳しい）。この手数料の比率を大学図書館では一般に「係数」とよんでいるが、宮坂寛氏は、「外国雑誌購入価格統一に関する一考察」（大学図書館研究16号 pp. 48-55, 1980年）の中で23%が妥当であろうと述べている。この値は毎年ほぼ一定なので、前年比の値上り率を算定する場合、考慮しなくともよいと考えられる。そこで次に外国雑誌の国内価格に大きな影響を与える雑誌予約時の為替レートについて述べたいと思う。

国立大学、特に北大、東北大、名大、京大、阪大、九大のいわゆる旧帝大の場合、外国雑誌を予約発注するのは例年10月に入ってからである。本学も10月、しかも、およそ前半の1日から10日の間である。したがって国内定価の算定要素となるのは10月中のその期間の為替レートで、凡そ1日から15日までの為替レートの平均をそれにあてている。米国の雑誌については毎年10月1日から15日までの円とドルの平均為替レートということになる。以下は過去6年間のその表と前年比である。

年	1975	1976	1977	1978	1979	1980
1ドルに 対して	円 303.89	円 289.81	円 253.81	円 188.42	円 226.77	円 209.30
前年比	—	0.954	0.876	0.742	1.204	0.923

したがって、これに図表5の米国雑誌の前年比価格上昇率の平均をかけると、国内価格の前年に対しての上昇率が得られる。

年	1977	1978	1979	1980	1981
国内定価にお ける前年比	1.042	0.983	0.817	1.369	1.046

ここで参考までに本学の外国雑誌（前金払のみであり、米国以外の雑誌も含まれているが）のここ数年の平均単価とその前年比をあげてみると、

年	1978	1979	1980	1981
平均単価(円)	41,238	36,213	50,161	53,817
前年比	—	0.878	1.385	1.073

となり、本学の前年比と国内価格における前年比とは非常に近い値であることがわかる。本学の諸先生方の中にも、円安であった一昨年、雑誌費の40%近い価格上昇に頭を悩まされた経験をお持ちの方が多いと思われる。このように外国雑誌の国内価格は、円高、円安の影響をまともにうけるわけであるが、今後のドルに対する円の為替レートの予測をもとに、原価の上昇率を1977年—1981年の平均上昇率として、今後5年間の米国雑誌の国内定価を試算してみたのが図表6である。図表中の1982年以降のドルに対する円の為替レートの予測は、日本経済新聞1982年1月1日号のNEEDS-TS/Ⅱマクロモデルによる「日本経済の新年度予測と長期展望」によったが、1981年のものは10月1日から15日までの平均レートである。

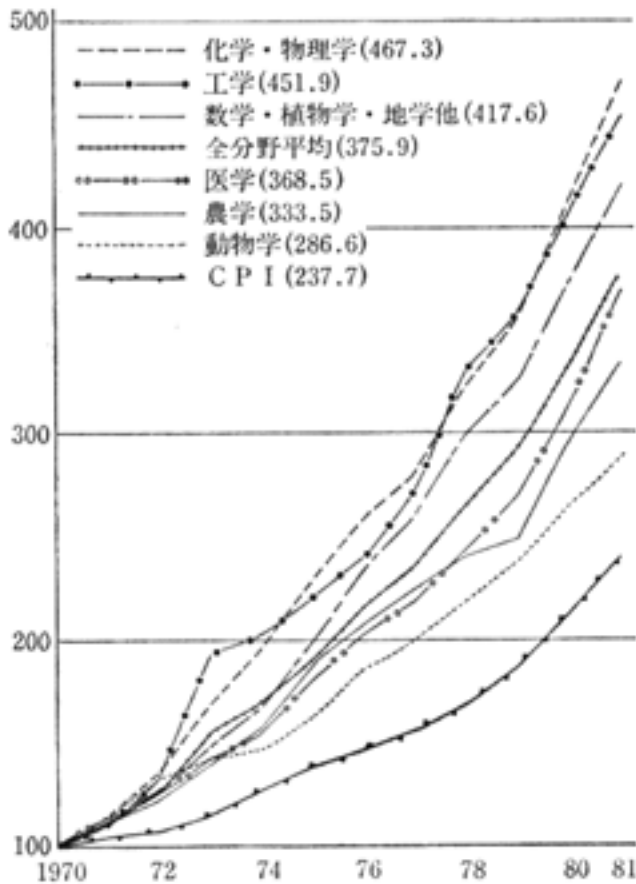
これを見てもわかる通り、1983年の米国雑誌の国内価格は1982年（特に問題となるのは10月前半なのだが）の円高予測のおかげで1982年よりも平均で2.5%安くなる予定であるが、それ以外の年は徐々に上昇していく予想である。特に来年度1982年は予約発注時（すなわち昨年の10月前半）のドル高、円安の為に（参考までに1980年10月前半は1ドル＝209.31円であった）米国雑誌の国内価格は1981年に比べて平均で23%上昇すると予想される。以後1984年の6.8%、1985年の9.5%、1986年の17.3%と上昇し、1981年を100とした場合、1986年は164.5となり、今年度と同予算では、5年後の1986年に、実に今の約60%しか米国の雑誌は買えないことになる。来年度の国立学校特別会計予算案並みの5.8%の伸びで予算が増え続けたとしても今の約80%しか買えない。現状を維持するだけの為にも、毎年最低10.5%ずつの予算増が必要なのである。ところが、57年度の教官当り積算校費の伸び率はゼロとなっており、これは非常に大きなインパクトである。この予測も徐々に円レートが高くなるという条件付きであり、1982年1月から3月まで平均は1ドル＝210.0円の予定であるが、ドル高、円安の昨今（2月8日1ドル＝234.30円）の様子から判断するにとっても達成できそうにない。米国雑誌の上昇率にしても過

去5年間の平均をとったものであり、図表5をみれば明らかなように、一進一退しながらも徐々に上昇傾向にある。米国におけるよりも全世界における方が値上り率が著しい（図表4参照）ということを含わせて考えてみると、今後、現状の情報

収集の水準を維持していく為には、分担収集と相互利用を徹底し、効率的な情報資料の集中化を行なうことが絶対に必要である。そして今こそ、まさにその体制作り着手しなければならない時ではないのだろうか。

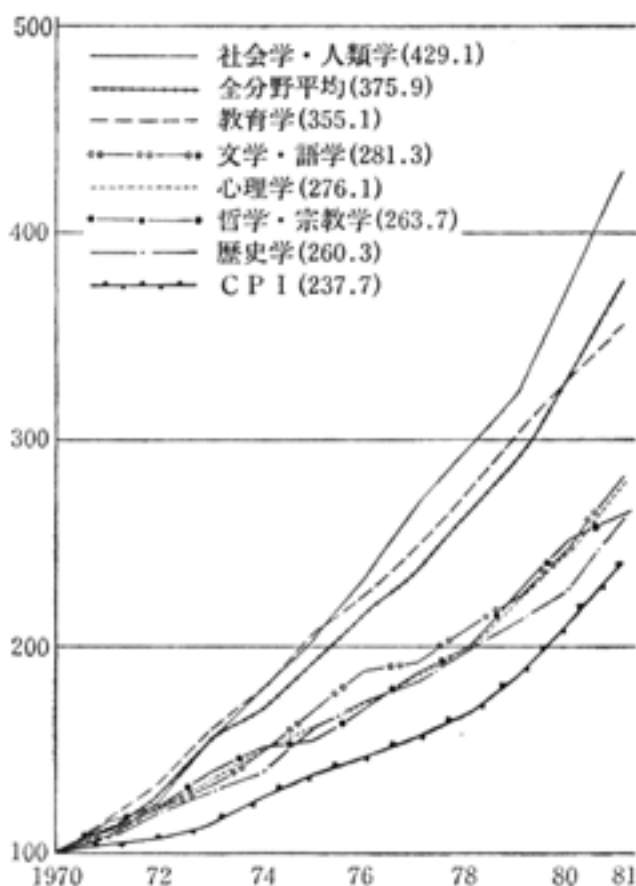
図表1 米国の学術雑誌価格の推移と物価指数との比較（自然科学）

※カッコ内は1970年を100とした場合の1981年の値。



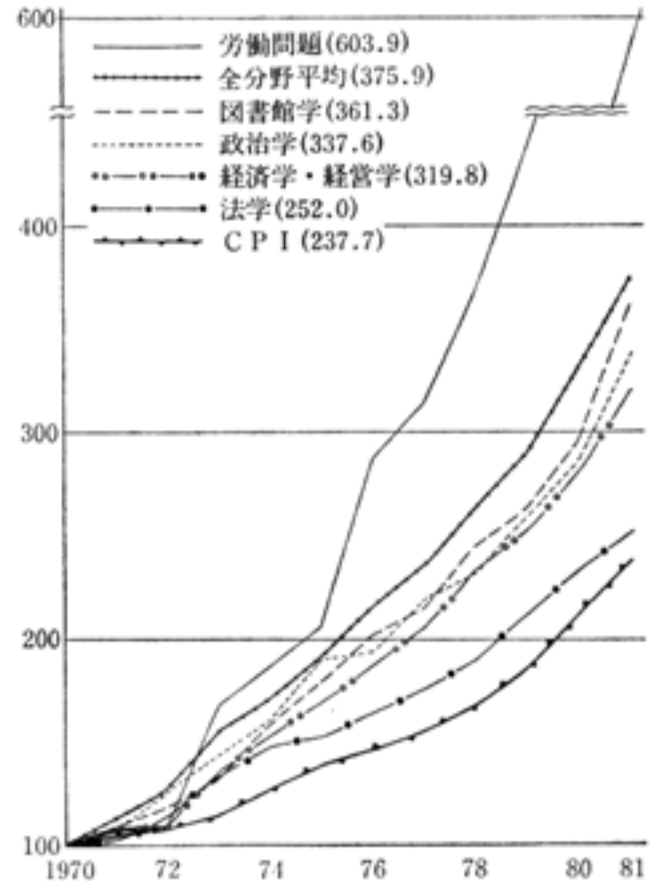
図表2 米国の学術雑誌の価格の推移と物価指数との比較（人文・社会科学A）

※カッコ内は1970年を100とした場合の1981年の値。



図表3 米国の学術雑誌の価格の推移と物価指数との比較（人文・社会科学B）

※カッコ内は1970年を100とした場合の1981年の値。



図表4 A Library Association Record, Vol. 83, No. 5 の Periodical Prices からの抜粋
ANALYSIS BY COUNTRY OF ORIGIN

Country	Index 1970 = 100
Great Britain	538.1
USA and Canada	314.8
Other Countries	620.4

MEDICINE

Subject	Index 1970 = 100
Dentistry, Ophthalmology, Audiology	359.9
General Medicine	364.5
Neurology, Psychiatry	481.4
Pathology and Clinical Medicine	471.2
Pharmacology	411.2
Public Health, Nursing, General Practice	440.7
Surgery, Anatomy, Physiology	534.6
Veterinary Medicine	527.2
Total	446.8

図表4 B

SCIENCE AND TECHNOLOGY

Subject	Index 1970 = 100
Agriculture	609.4
Anthropology	448.4
Astronomy, Astrophysics	583.6
Biology	428.6
Biophysics, Biochemistry, Microbiology	608.6
Botany	628.5
Chemistry	477.6
Civil Engineering	413.9
Computers, Automation and Control ..	388.7
Electronics, Electrical Engineering and Aeronautics	328.5
Food, Soap, Cosmetic Industries ..	425.6
General Science	481.1
General Technology	458.5
Geology, Mineralogy, Geophysics and Meteorology	432.6
Glass, Ceramics	403.8
Heating, Lighting, Ventilating ..	329.9
Industrial and Engineering Chemistry	365.9
Mathematics and Statistics	457.4
Mechanical Engineering	515.7
Metallurgy	415.4
Nuclear Science and Technology ..	580.7
Petroleum and Fuel Technology ..	602.2
Physics	601.6
Polymers, Paint, Rubber, Plastics ..	402.8
Printing, Paper, Packaging	368.8
Production Engineering and Operational Research	506.2
Textiles, Leather, Dyeing	409.9
Transport	626.6
Zoology	545.4
Total	496.1

HUMANITIES AND SOCIAL SCIENCES

Subject	Index 1970 = 100
Accountancy and Finance	376.4
Architecture and Town Planning ..	530.8
Art	338.0
Classics and Archaeology	378.7
Commonwealth, Oriental and African Studies	464.7
Economics and Trade	445.8
Education and Child Psychology ..	381.2
English Language and Literature ..	317.5
Entertainment - Theatre, Film, Ballet ..	391.8
European Language and Literature ..	477.3
General and Popular	437.7
Geography	279.3
History	430.0
Law and Criminology	416.9
Librarianship and Documentation ..	335.5
Management	380.4
Music and Recording	382.8
Philosophy	449.6
Photography	524.4
Political Economy and Politics ..	517.4
Psychology	338.9
Religion and Theology	442.1
Sociology	421.4
Sports and Pastimes	449.3
Total	413.4

図表5 米国内で出版された雑誌の価格上昇率（前年比）

（単位％）

	1977	1978	1979	1980	1981	平均
全 体	9.2	12.2	10.1	13.7	13.3	11.7
医 学	8.1	11.2	11.0	15.9	17.7	12.7
工 学	12.2	11.2	8.0	14.4	11.0	11.3
農 学	7.7	7.8	13.5	7.6	13.1	9.9
数学・地学・植物学他	10.9	14.9	8.6	14.8	12.0	12.2
化 学・物理学	8.1	15.4	9.3	16.2	13.7	12.5
動 物 学	7.5	10.0	8.4	11.0	8.4	9.1
文 学・語 学	1.9	8.6	7.8	10.5	13.1	8.3
歴 史 学	5.8	8.5	7.0	7.5	13.9	8.5
哲 学・宗教学	9.6	7.1	13.6	11.2	4.5	9.2
社会学・人類学	15.0	9.7	9.8	16.3	13.8	12.9
心 理 学	8.0	7.8	11.4	10.1	12.7	10.0
教 育 学	9.6	11.1	10.9	8.5	7.4	9.5
法 治 学	7.1	7.9	12.0	9.6	7.8	8.9
政 治 学	13.3	5.3	11.8	10.5	17.6	11.6
経済学・経営学	9.7	13.3	8.9	10.7	13.6	11.2
労働問題	8.8	17.8	18.9	19.7	15.1	16.0
図 書 館 学	6.3	14.0	7.7	11.7	22.5	12.3

図表6 米国雑誌の国内価格における上昇率予測 (数値は前年比)

	1982	1983	1984	1985	1986	81年=1とした ときの86年の値	81年と同予算で86年 に買える雑誌の割合
為替レート(円/ドル) (81年 1ドル=209.30円)	230.45	201.25	192.50	188.65	198.08		
全 体	1.230	0.975	1.068	1.095	1.173	1.645	0.608
医 学	1.241	0.984	1.078	1.104	1.183	1.719	0.582
工 学	1.225	0.972	1.065	1.091	1.169	1.617	0.618
農 学	1.210	0.960	1.051	1.077	1.154	1.517	0.659
数学・地学・植物学他	1.235	0.980	1.073	1.100	1.178	1.682	0.595
化学・物理学	1.239	0.982	1.076	1.103	1.181	1.705	0.587
動物学	1.201	0.953	1.044	1.069	1.146	1.464	0.683
文 学・語 学	1.192	0.946	1.036	1.061	1.137	1.409	0.710
歴 史 学	1.195	0.948	1.038	1.063	1.139	1.424	0.702
哲 学・宗教学	1.202	0.954	1.045	1.070	1.147	1.471	0.680
社会学・人類学	1.243	0.986	1.080	1.106	1.185	1.735	0.576
心理学	1.211	0.961	1.052	1.078	1.155	1.524	0.656
教 育 学	1.206	0.956	1.047	1.073	1.150	1.490	0.671
法 学	1.199	0.951	1.042	1.067	1.143	1.449	0.690
政治学	1.229	0.975	1.067	1.094	1.172	1.639	0.610
経済学・経営学	1.224	0.971	1.064	1.090	1.168	1.610	0.621
労働問題	1.277	1.013	1.110	1.137	1.218	1.989	0.503
図 書 館 学	1.236	0.981	1.074	1.101	1.179	1.690	0.592

東北大学記念資料室だより

○ 旧年末から新年にかけて、昭和56年度末の本室恒例の作業が忙しく続いている。

① 停年退官教官の記念写真(モノクロ・8つ切)を作製し、贈呈したり保存したりすること(本年度は13名)。12月から始まり、間もなく完了する予定。

② 停年退官教官の希望者に各個の著作目録(A5版)を作製し、贈呈したり保存したりすること(本年度は11名)。例年より早く、現在全原稿が印刷所に入っている。

③ 全学各部局・事務局各部に対して、56年度刊行の部内印刷物の寄贈を依頼(4月末まで)。

○ 停年の方々とその他の方々とを問わず、記念資料(大学の歴史のため保存しておきたい品)を、本室へ御寄贈下さい。

○ 本年6月22日は、本学開学75周年記念日にあたる。意義深い行事が催されることを心から祈っている。

会 議 等

○ 昭和56年度漢籍担当職員講習会

と き：昭和56年11月30日～12月5日

ところ：東京大学東洋文化研究所附属東洋学
文献センター

受講者：関覧掛 岩崎道子

○ 国立大学図書館協議会常務理事会等

と き：昭和57年1月18日

ところ：東京大学総合図書館

出席者：服藤館長、長尾事務部長

○ 第18回大学図書館国際連絡委員会

と き：昭和57年1月29日

ところ：東京大学総合図書館

出席者：服藤館長、長尾事務部長

○ 昭和56年度国立大学附属図書館事務部長会議

と き：昭和57年2月2日

ところ：北海道大学附属図書館

○ 大学図書館長との懇談会

と き：昭和57年2月5日

ところ：国立国会図書館

出席者：長尾事務部長

○ 昭和56年度東北地区大学図書館協議会実務者研修会

と き：昭和57年2月12日～13日

ところ：東北大学附属図書館

○ 昭和56年度第2回東北大学附属図書館総合研修会

と き：昭和57年2月12日

ところ：東北大学附属図書館大視聴覚室

○ 国立大学図書館東北地区協議会臨時事務(部課)長会議

と き：昭和57年2月26日

ところ：東北大学附属図書館

DIALOG オンライン情報検索サービス

このたび、国際的な学術情報検索を可能とするため、米国ロッキード・ミサイルズアンドスペース社の開発による、ダイアログシステムを2月15日(月)より開始しました。

本館では已に昭和55年4月から JOIS オンライン情報検索を実施しましたが、この導入により更

に便利さを加えることと思います。

1. このサービスを利用できるものは、本学の教官等で、かつ費用は校費を支弁できる場合に限りま。
2. 利用手続方法は JOIS の場合と同様に、所定の申込書に記入し参考カウンターに提出して下さい。なお主任所属教官の確認印が必要です。
3. 利用の際は事前に参考調査掛に連絡して下さい。ファイルされている種類が膨大なので、利用者はあらかじめ対象分野、期間等を確立させておくことが必要です。
4. 本館の DIALOG を利用できる範囲は川内地区の全域及び片平地区の各研究所、科学計測研究所、理学部とします。
また医学、農学、工学の各分館でもダイアログシステムを開始します。
5. 検索受付時間
月曜日～金曜日 14:00～17:00
土曜日 9:00～10:00
6. サービス料金
各ファイル種別によって料金が異なります。
使用当月平均の米ドル、円換算レートによる。
更に手数料3%と通信回線使用料(1分間80円)を加算します。

『お 知 ら せ』

外国学位論文コーナーの設置

このほど、館員による「外国学位論文整理プロジェクト・チーム」の協力で、未整理であった約二万冊近い外国から寄贈された学位論文が、公開される運びになった。場所は、書庫内地下一階の左側の右奥で、通路の上部に、学位論文コーナーの表示が出ている。書棚には、学位論文が論文執筆者の姓の頭字の ABC 順で排架されており、今後継続して寄贈される論文も直ぐに、ここに配列される。しかし、今回の整理では、検索の手段となる目録カードもリストも作製しなかったもので、利用者が直接、実物に当たって調べる以外に検索の方法がない大変不便なものになった。そこで、次の整理目標として、プロジェクト・チームでは、学位論文の執筆者から検索できる索引カードを目下、急いで作成中であるが、研究者からの要望もあって、とりあえず、この段階で公開して利用に供することとした。また、一方、現在、全国国立大学附属図書館レベルで、学位論文の処理についての検討が行なわれており、速やかな根本的解決を期待している。なお詳細については参考調査掛(内線—2430)かメイン・カウンター(2431)で、お問い合わせ下さい。

退職・転勤及び卒業(修了)予定の方へ 貸出図書の返納について

昭和56年度を以て、卒業(修了)及び退職・転勤等により本学から異動される予定者で、附属図書館(本館・各分館)より図書館資料を帯出している方は、期限内に全て御返納ください。返納が遅れますと他の利用者に不便をかけることとなりますのでよろしくお願いいたします。

借用図書の内訳を確認したい場合やその他返納手続等について不明な点がありましたら、本館または分館の該当カウンターにお問い合わせください。

なお、下記事項には特に御注意くださいますようお願いいたします。

記

- 個人名義で借用された図書は、そのまま研究室に残したり、名義の書換えなしに同僚や後輩の方に預けたりせずに、必ず返却の手続をおとりください。
- 退官を以て本学の名誉教授となられる方は、引き続き図書の貸出を受けられますが、事務処理上、借用図書等の確認を行う必要がありますのでいったん返納いただいた上で、改めて借用手続をおとり願うこととなります。

昭和57年度入館券・貸出券申込受付について

昭和57年度から、教養部のご協力によって、新入生の入館登録申請を入学手続と併行して進めるようになりました。

これによって、従来申込日から2日後に交付していた入館券・貸出券を来館と同時に交付することができ、新入生の図書館利用も即日可能となります。

なお、在学・在職中の方の入館券交付は従来通り行います。申込みは、学生は開架閲覧室カウンター(2階)、教職員・院生はメイン・カウンター(1階)で4月より受けつけます。

昭和56年度入館者実態調査

昭和56年度入館者実態調査を、56年11月・57年2月の2回にわたって行いました。御協力ありがとうございました。

なお、調査結果は集計ののち「中央図書館の利用状況について」に掲載いたしますので、是非ご覧ください。(「中央図書館の利用状況について」は、各カウンター・図書室に配布しています。)

開架閲覧室配架整備作業について

昭和56年12月23日～25日の3日間にわたり、開架閲覧室の配架整備を実施しました。今回の整備では、雑誌コーナー・参考書コーナーを中心に作業を行いました。

雑誌については、昭和57年1月から従来の分類による配架を止め、誌名のABC順に配架するようになりました。これは、書庫内雑誌の配架方法変更に合わせての措置です。

次回の配架整備は、3月23日(火)～27日(土)を予定しています。期間中は閉室とさせていただきます。

きますので、あらかじめ御了承ください。

また、これまで館員研修用としてきた図書館関係の雑誌107種を研究閲覧室に配架しました。貸出はできませんが、閲覧は自由です。是非、御活用ください。

学生の皆さんへ！

図書館では、より良い蔵書構成を図るため、皆さんの御意見、御希望をお待ちしています。

開架閲覧室入口正面に、学生用希望図書ポストを設置してありますので、お気軽に御意見をお寄せください。

人 事 異 動

発令年月日	旧 官 職	氏 名	新 官 職	備 考
56. 12. 1	整 理 課 長	玉 木 卓 郎	横浜国立大学 附属図書館 事務部長	昇 任
"	閱 覧 課 長	柿 沼 正 男	整 理 課 長	配 置 換
"	文化庁文化部 芸術課専門員	徳 永 博 隆	閱 覧 課 長	転 任
56. 12. 29	総 務 課 事務補佐員	丸 田 ゆ み		辞 職
57. 1. 4		坂 本 晶 子	総 務 課 事務補佐員	採 用
57. 2. 11	総 務 課 事務補佐員	斎 京 子		辞 職

編 集 後 記

◇海外では、寒波、熱波で、気候に異変が起きていると言われているのに、日本は暖冬で穏やかな日々が続いている。

その日本にも二月に入ると、ホテル火災、航空機事故という大惨事が、相次いで起きた。

「災害は忘れた頃にやってくる」は寺田寅彦の有名な警句だが、いつ災害に遭うかわからない今日、とっさの判断が生死を分けることにもなる。

人間は常に冷静にもの事を判断しなければならぬことを、この惨事から痛感させられた。

◇館報「木這子」も創刊以来満6年になります。多くの方々の暖いご支援をうけ、ここまで成長して来たことを心から感謝致します。

6年という歳月は、人間に例えれば幼児期で、次号からはピカピカの一年生ということになる。

「木這子」は「硬い」ということを耳にします。PR紙である館報作成の目的は、図書館の活動を紹介すること、つまり「木這子」の情報が図書館に対する理解を深めることと、図書館利用者の増加を計ることにあると思います。

「硬い」というイメージで読んでももらえないのでは、目的を達成することはできません。

一年生に進級するにあたり、新しい企画を取り入れ、読者に親しまれる魅力的な「木這子」に飛躍したいものです。その為にも皆様のご意見やご批判を、またご寄稿を改めてお願い致します。

東北大学附属図書館報「木這子」 第6巻 第4号(通巻第24号) 発行日 昭和57年2月27日

編集委員長 佐々木勝義 編集委員 佐藤賢策、藤原克彦、京極菊子、森脇ちか

発行人 長尾公司 発行所 東北大学附属図書館 仙台市川内 電話 代表 22-1800(2408)